

定時制令和2年度後期始業式 校長式辞（R2.10.6）

後期始業式にあたり、私から話をさせていただきます。

たった3日間の秋休みでしたが、リフレッシュできましたか？当初は5日間の秋休みを設定していましたが、前期終業式でも話しましたが、臨時休校が続いた影響による授業回復のために、短縮せざるを得ませんでした。橋本教頭は、当初、秋休みは2日でもいいでしょうと言ってきたのを、私がやっぱりもう1日あげようよと言って3日になったことでした（笑）。いずれにしても、3日間とは言え、心と体を一旦リセットできたのではないのでしょうか。

さて、後期のテーマは「進路実現に向けた実力を養う」です。

言うまでもなく、自分の将来を見据えて学習に力を入れてほしいものです。**学ぶ姿勢を維持**すれば、自ずと実力は付きますし、**人間的にも成長**します。

それを実行して、世界から賞賛されるスーパースターになった人を紹介します。誰だと思えますか。

大坂なおみ選手です。

先月の全米オープンテニスで優勝したのは、皆さんも知っていることでしょう。ハイチ人のお父さんと日本人のお母さんの間に生まれました。彼女は数年前から実力は注目されていましたが、如何せん、精神的な未熟さからプレーにムラがあり、猛烈に強かったと思えば、あっさり負けて涙を流すという場面がよく見られました。その結果、ファンを喜ばせることもあれば、がっかりさせることもありました。しかし・・・、

今年の彼女は、しっかり技術だけでなく人間的な成長を世界中に見せることができました。アスリートが社会問題について発言するのは暗黙の内に憚られる中、全米オープンの前哨戦の、ウエスタン・&・サザンオープン大会で、ベスト4になったにもかかわらず、ウィスコンシン州で起こった黒人襲撃事件に抗議する意を込めて準決勝を棄権すると決めました。しかし、大会側も同問題に抗議する意で1日延期を決めたため出場を続行しました。この前言撤回も勇気が要ったことだと思います。要するに大人の対応だと思います。

全米オープンでは、マスクに黒人差別で亡くなった7人の名前を付けて、それこそ無言で戦いました。7人全ての名前を出すためには、決勝まで進まなければなりません。プレッシャーは相当大きかったはずですが、見事、有言実行を成し遂げました。

昨年当たりから彼女の**人間的な成長**というか、器が大きくなったなと感じることがありました。15歳の新星コリ・ガウフ（アメリカ）との一戦での出来事です。大坂にたたきのめされたガウフは、試合終了と同時に涙を溢れさせました。それを見た大坂は、一緒にインタビューを受けようと呼びかけました。拒絶した彼女に「シャワーに入って一人で泣くより、今の気持ちを話した方がいいよ」と促しました。ガウフは涙を見せながらもインタビューに答えましたが、大阪なおみもその姿を見て涙を流しました。自分に勝ったのに涙を流す大阪なおみを見て、彼女は感謝とリスペクトをこんな言葉に込めました。

「今日、彼女が本物のアスリートであることが分かりました。コートでは相手を憎い敵のように扱い、試合が終われば最高の友だちとして接する、それが私が考えるアスリートだと思います。」と。

勝者と敗者が一緒にインタビューを受ける、しかも互いに感動の涙を流す

なんてこれまでにないことでしたし、若い頃の自分を思い出して相手を労り、成長を促す大坂なおみの姿に世界中が感動した出来事でした。

もともと彼女はシャイでありあまり社交的ではなかったそうです。しかし、自分で進んで人と交わろうと決めて話しかけに行くようになったそうです。特に自分が尊敬する人物には積極的に会いに行ったそうです。バスケットボール界のレジェンド、コービー・ブライアントを知っていますか。

大坂選手は、この1月にヘリコプター事故で亡くなった元バスケットボールスタープレイヤー、コービー・ブライアントとも親交があり、今回、全米優勝を決めたあとの記者会見で、この恩人に感謝の言葉を述べました。

「彼に誇りに思ってもらえるようなことができればいい。一人の人間がこれほど多くの人に影響を与えるなんて素晴らしいことです。彼は私が立派な人になれると思ってくれていたし、私もそうありたいのです」と。続けて、

「私は成長しようと努めました。そのためにどのようなプロセスを踏むべきか、確信はなかったけれど。でも、これまで学んできたことは、間違いなく私を人として成長させてくれたと感じます」と。

大坂なおみ選手の話から、私が皆さんに伝えたいのは、大坂選手には常に人としての成長、選手としての成熟を求める強い意志と学ぶ姿勢があったことです。後期は、学習にじっくり取り組めます。総合的な探究の時間も、昨年までとうって変わって、探究活動に取り組みます。地域の人たちとの出会い、他校生との交流をとおして、地域人材としてどうあるべきかを生徒・先生方と一緒に考えていきます。全ての取組みで「学ぶ姿勢」を大事にして下さい。きっと、半年後には、「自分自身の成長」を実感できるはずです。それと、「レジリエンス」も忘れずに。以上で、私からの話を終わります。